

1 生徒の実態（実態把握・調査結果の分析）

（1） 生徒の実態（1学期の授業で感じた様子）

- 1年→全体的に元気で、真面目に授業に取り組み、発言も多い、実験にも積極的に参加している。とくに男子が積極性にあふれている。予習をしてくる生徒も毎時間2～3名いる。
- 2年→全体的に真面目に授業に取り組み、実験にも積極的に参加している。男子生徒がよく発言する。
- 3年→全体的に、真面目に授業に取り組み、実験にも積極的に参加している。宿題もしっかりやってくる。

（2） 調査結果の分析

- 1年→科学に対する意欲・関心がかなり高い。知識・理解の定着や家庭学習の習慣は、まだ、完全には身につけていない。
- 2年→基礎的内容の理解が少しずつ高まっており、効果をあげている。家庭学習の習慣が身に付きつつある。
- 3年→基礎的内容の理解が全体として高まっている。

2 指導上の課題

- ・ 各学年とも、結果をもとに考察する力が不足している。
- ・ 宿題を自宅ではやらずに登校し、直前になって友達のプリントをうつそうとする生徒がいる。
- ・ 家庭学習の習慣が身につけていない生徒がいる。

3 授業改善の視点とその方策

- ・ 基礎学力の向上に重点を置き、基礎事項の小テストを各学年とも多く実施し、理解の徹底を図る。
- ・ 実験をなるべく多く実施し、科学的興味・関心につなげる。
- ・ 実験の目的を明示し、常に目的を考えながら実験する習慣を身につけさせる。
- ・ 家庭学習の具体的方法についてさらに指導し、ノート点検などを通じて確認したい。
- ・ 簡単な発問を多くして、全員が参加できる授業をめざす。
- ・ 常に評価の観点を明示し、何を努力しなければならないか確認する。
- ・ ノート提出の評価を通じて家庭学習の努力も評価していく。
- ・ 毎回の授業の中で意欲関心は赤ハンコ、科学的思考は緑ハンコ、技能表現は青ハンコで評価を積み上げていく。

4 その他

- ・ 夏休みの学習教室などを通じて、知識理解をさらに定着させたい。また、自身で課題を設定して研究に取り組む自由研究に年に1回はチャレンジさせる。